

## 令和5年度 厚生文教委員会 委員派遣報告書

会 派 名	厚生文教委員会
議 員 名	住田 誠、角広 寛、宮垣 秀正、児玉 敬三、 新元 昭、中重 伸夫、寺田 元子
議員派遣先名	教育支援センター三原教室、教育支援センター本郷分室、 三原小学校（学校ふれあい教室）、宮浦中学校（スペシャルサポート ルーム）

### 派遣費用

科 目	支出額	摘 要
	-	
合 計	0円	

### 1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

厚生文教委員会において、不登校児童・生徒への支援をテーマに調査研究していることから、三原市の不登校支援の取り組みについて視察を行った。

### 2 実施概要（1カ所目）

実 施 日 時	派 遣 先	三原小学校、宮浦中学校 教育支援センター（三原教室、本郷分室）
令和6年1月30日 9：00～16：00	担 当 部 局	三原市教育部学校教育課
報 告 内 容 ・ 所 感	<p>以下の不登校児童・生徒への支援内容を視察した。</p> <p>1、三原市の予算で取り組んでいる内容 （1）学校ふれあい教室 支援している相談員：学校ふれあい相談員 支援場所：三原小学校 取り組み内容：通常の教室に通えない児童の「居場所」として機能している。児童個別に対応しており、クロームブックを使用して授業に参加したり、補ったり、担任から提供されるプリントなども行っている。 ただ、この教室に通えない児童も多い。また、保健室（教諭に依存）や職員室（出来ることを手伝う、役に立ちたい）に通学する児童もいる。学校行事や給食のメニューなどの理由で登校するケースもある。 元々教室だった場所を使用し、非常勤の職員が週4日（20時間）で対応して</p>	

<p>報告内容・所感</p>	<p>いる。</p> <p>(2) 三原市教育支援センター          支援している相談員：青少年指導相談員（元教諭5名）          支援場所：三原教室（三原リージョンプラザ2階）、本郷分室（本郷生涯学習センター内）          取組み内容：          三原教室では勉強以外に植物を育てたり、音楽演奏やバトミントン、社会見学を行い、登校への工夫をしている。本郷分室でも、トランプやバトミントンを取り入れている。          本郷分室は教室が綺麗で環境は良い。</p> <p>2、広島県の予算で取り組んでいる内容          (1) スペシャルサポートルーム（SSR）          支援している相談員：教諭          支援場所：宮浦中学校          取組み内容：通常の教室に通えない生徒の「居場所」として機能している。勉強などの時間割を自分で決めて行動している。県の支線センター「スクールS」が行っているオンラインの取組みも活用。          この教室に通えない生徒も多い。生徒個別に対応することが重要で、アセスメントシートで生徒の状況などを関係職員で共有している。          通常の教室とは違って、教室にはテーブルと椅子が配置してあり、親しみやすい雰囲気にしてある。パーテーションも設けて、個別の空間を作ることできる。</p>
<p>市政に活かせること（まとめ）</p>	<p>通常の教室に通学できない児童・生徒の一部には、学校ふれあい教室やスペシャルサポートルームがあることで、「登校している」「授業が補完できる」「先生と直接会話ができていいる」など、不登校を防ぐ役割を果たしている。</p> <p>一方、各学校による個々の取組みのため、児童・生徒と担当教諭や職員のミスマッチ（性別や人柄、能力など）も見受けられた。さらに、人員や予算などで、授業内容や教室の環境などを充実させられないといった課題もある。</p> <p>学校に通えず、支援センターを利用している児童・生徒もいるが、何も支援を受けていない児童・生徒も多く、今後の課題である。三原教室は通いたくなるような明るい雰囲気への環境の改善や、両方の教室に、若い世代の職員が配置できれば利用率も上がると感じる。ソフト面では「スクールS」の取組みを活用することも検討すべき。また、情報交換などで保護者の会が有効なのではないかと感じる。</p>

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。